

令和5年度第3回山梨県公立大学法人評価委員会 議事概要

- 1 日 時 令和5年8月23日（水）午後2時00分～午後4時00分
- 2 場 所 山梨県立大学飯田キャンパス A館2階大会議室
- 3 出席者 委員 一之瀬滋輝 小川忍 黒澤尋 徳永保（オンライン） 山口由美子
法人 早川理事長 藤原副理事長 ほか
事務局 武井私学・科学振興課長 ほか

<委員長あいさつ>

お忙しいところお集まり頂き感謝申し上げます。本日はこのような形（オンライン）で参加させて頂く。よろしく願い申し上げます。

<議題>

- （1）令和5年度第2回山梨県公立大学法人評価委員会議事概要（案）について
審議の結果、案のとおり了承された。
- （2）公立大学法人山梨県立大学令和4年度業務実績に関する評価結果（案）について

○委員長

まず、本日の評価の進め方、配布資料の説明について事務局から御説明お願いする。

○事務局

資料2及び3により説明。

○委員長

前回の第2回評価委員会の後、各委員から照会或いは修正を求める御意見を頂き、法人の業務実績報告に修正があった。修正内容は、各委員に共有されているところだが、法人から追加で説明することがあればお願いしたい。

○法人

資料4により追記事項の説明。

（法人関係者は退室）

○委員長

それでは、議題2の業務実績に関する評価及び評価結果について、具体的に審議頂く。

まず資料2の令和4年度業務実績に関する評価結果及び、資料3の論点整理表により、議事を進めさせて頂く。資料2の方はどちらかというと総論のため、先に資料3の論点整理表をまず固めてから、次に移る方が良いと思うがよろしいか。

もちろん資料2も併せて説明頂くこととし、委員の意見が既に揃っているところは、確認するだけということで進めさせて頂きたいがよろしいか。

○他委員

良い。

○委員長

それでは、審議は項目ごとに行うため、まず事務局から評価結果は簡単に言ってもらい、資料2、3に戻るような形で説明をお願いしたい。

○事務局

資料2及び3により説明。

○委員長

I-1(1)の評価結果については、委員の評価結果は一致しているため、資料2の方の評価結果の方に、どのように意見を反映するかであるが、資料2の評価結果の9～10頁のところで、こういう意見として載せるべきとか、このような表現はどうか等、委員から御意見、御質問等はあるか。

もし、後で御意見、お気づきの点があれば発言頂くということで、I-1については、このとおりで決定し、進めさせて頂くがよろしいか。

○他委員

良い。

○委員長

それでは、I-1(2)教育の実施体制について事務局から説明頂きたい。

○事務局

資料2及び3により説明

○委員長

今の説明について御質問、御意見等あるか。

○他委員

ない。

○委員長

私からひとつ追加して委員の皆様にご理解を頂きたいことがある。

教学マネジメントという言葉は、2018年度中央教育審議会答申のグランドデザイン答申から出された言葉であり、それ以前はこのような言葉はなかった。

意味合いの受け取り方が鋭い大学と、スローテンポのところがある。山梨県立大学の場合

は、評価事項の小項目の10に書いてあるような、アドミッションポリシー、カリキュラムポリシー、ディプロマポリシーの3ポリシーというのは、今から20年ぐらい前から言われていることで、今このようなことを言っているのは、教学マネジメントを履き違えている。教学マネジメントはそのような3ポリシーを決めることではない。

今まで各大学は、学部学科が勝手に教育課程を編成、教育し、それに何人の教員、お金が必要だということを本部に言ってきた。

今では、教学マネジメントは、大学としてどのような教育をするかまず方針を決め、その上で各学科、学部でどのような教育をしてもらうか、そのためにどれだけの資源を各学部学科に配置するかといった、企業が事業分野ごとに資源を配置するような、学内の資源配分マネジメントの意味になってきている。

ところが県立大学は、まだそのような認識ではなく、教育をどうするかといったような古い時代のマネジメントを行っている。

今、多くの大学で行われていることは、さっき言ったように、大学としてどのような教育をするのか、そのためにどのようなカリキュラムを学科にやってもらうか、そのためにはどのように資源を配分していくということを、大学が主体的に決めていくことで、その点に対する意識が遅れている。

ただ、中期計画そのものが、そのような意識転換に至っておらず、2018年頃の教学マネジメントに立っている計画とのことであるため、法人が悪いというよりも、中期計画そのものに書いていないということに問題がある。大学としてどのような教育方針を立て、そのためにどのような資源配分マネジメントをするかという話であり、教育の中身と言うよりも教育の実施体制の話になるためこちら側の課題であるが、そのようなことは行われていない。中期計画に書いてないから駄目ということにもならないが、そのようなことを法人に指摘していかなければならないと思う。

各企業もそうだろうが、自分の持っている人材、人員、資金等の資源を有効に使うために、上手に資源配分マネジメントを行うことが必要になってきている。そのような観点を法人にも観点を持って頂き、趣旨を盛り込んで頂ければありがたい。

このことについて、山梨大学ではいかがか。

○委員

山梨大学でも、教学マネジメントの概念は理解しているが、まだ学部、学科の独自性が残っている。委員長仰った、大学の人的資源と教育リソースがもう限定されているため、これを効率的に運用しなければならないことは必至と感じている。

実際に大学を主体とした教育ガバナンスというような方向に、移行しつつある。完全に理想的な形にはなっていないが、やっていかないと、これから国立大学も運営が厳しいという状況である。

○委員長

中期計画そのものが、指摘が欠けているところがある。今後どうするかについては、ぜひ委員に中期的にどうしていくのかまた別途検討頂くこととし、私としては、今後に向けた、期待する事項に対する指摘のようなことが評価に示されればありがたい。

そのような観点を示す程度で良いと思うが、ぜひ県の方で検討頂ければありがたい。

○事務局

そして指摘事項と評価にあたっての意見のところで追記し、文言については相談させて頂きたい。

○委員長

委員から具体的な質問と指摘があるが、大学からの回答でよろしいか。

○委員

良い。

○委員長

それでは引き続き、I-1(3)、学生の支援に関する目標評価ということで、まず事務局から説明頂きたい。

○事務局

資料2～3により説明。

○委員長

14以外は委員の意見が一致しているため、14以外で資料2の12頁に書いてある以上に何か記載すべきというような御意見はあるか。

なければ、なぜ14で私がIVをつけたかということ、健康管理のシステムで各種データを蓄積して、皆でデータを学生支援に活用していると言っているため。DXはこのようなものが一番大きい、専門用語で言うと、CR（コンシューマー・リレーションマネジメント）というものがあって本当はその学生が何をやって何を悩んでいるかというのを上手に皆に共有するようなものがDXの第一歩で、そのように共有しているのかと私は思った。

県から見て、そのレベルではなくただみんなで共有している程度のことなのか。学生が体調を崩したことを各先生方が知って、その先生が学生にアドバイスをするような形で共有されているのか。或いは、ごく一部の健康データが共有されているだけで、とてもDXといえる程度ではないのであれば私は評価を引っ込める。

保健室以外の人たちも、学生の体調を見ていて、体調と最近の出席状況を照らし合わせて考えているみたいな言葉で使っているのかどうかその辺はわかるか。

○事務局

そこまで詳しいことは確認をしていないため、大学に確認し、また共有させて頂き、評価を決めるという形でもよろしいか。

○委員長

私としては、そこまで本当にやっているのであれば色つけて頂きたいが、コンシューマン・リレーションマネジメントと、とても言えるような話でなければ戻すこととしたい。

○委員

評価のあり方についてだが、この評価は、評価結果のAというところが重要であり、この14番の中の評価ⅢとかⅣと揃っていなくても自然であると思う。例えば他の委員が委員長の評価がもっともだと言ってⅣとした場合に、AがSに変わるかどうか。

○委員長

それはAで変わらない。

○委員

であれば、あまり小項目まで評価が揃う必要はないと思う。

○委員長

ではAで変わらないということで、細かい具体的なものは県の判断に任せる。それでよろしいか。

○委員

良い。

○委員長

他の委員はいかがか。学生支援のところは結構県民の方も見ているため、学生の生活支援とか健康というようなことで、何か記載した方が良いのではないかとこのころがあれば、後で御指摘頂くこととし、一応、委員の御意見が揃っているということで次に進めさせて頂くがいかがか。

○他委員

良い。

○委員長

次に、I-2-(1) 研究推進及び研究成果に関する目標について、まず事務局から説明頂きたい。

○事務局

資料2及び3により説明

○委員長

では、評価結果は基本的に変わらないが、細かいところも変わらないため、委員からこの点が抜けているとか、この点を変えて欲しいという御意見、御質問等がなければこのままにしたいと思うがいかがか。

○他委員

良い。

○委員長

それでは、I-2-(2) 研究実施体制の整備に関する目標についてお願いします。

○事務局

資料2及び3により説明。

○委員長

S評価というのはコメントからわかるように、今後、一定の研究成果を上げることができればS評価ということ。まだ今年の成果は出ていないため、ここはA評価でも良い。まだまだ成果はこれからだと思うが、20番のところの私の意見としては、かなり高く評価した方が良いのではないか。

というのは、私が初めてこの県立大学法人評価委員に就いた当時も、県立大学は地域研究交流センターで一生懸命地域のことに取り組んでいた。

その時に、センターの様々な成果を教育や研究の方に反映することを検討しているか質問したところ、本来は、法人の長である理事長・学長が答えるのは当たり前だが、ある学部長が手を挙げ、全く考えていないと答えた。

なかなか大変な大学だと思ったが、その時と比べると、今まで地域研究交流センターでやっていたことに、全学の先生が参加して頂いて、地域の課題、研究開発始めて頂いたことは、他の大学では当たり前のことかもしれないが、私からすれば格段の進歩であり、この評価をつけたという次第であるが、いかがか。

○委員

山梨の問題について、県立大学だからこそ、大学を挙げてというところはあると思う。

基本的には年度計画に応じてというところで評価させて頂いたが、委員長がおっしゃるように、私もそのような気持ちはある。

○委員長

山梨大学からすれば何を今更評価するのかという見解かもしれないし、特に企業や様々な団体からすれば当たり前のことだろうが、私からするとすごい進歩であると思い高く評価している。

もちろん全体の評価はAということで結構だが、委員から、そこまで高く評価する必要はないというような異論がなければ、20については、小項目評価ではあるがぜひIVとして頂ければありがたいと思うがいかがか。

○委員

委員長のお気持ちはよくわかった。我々からすれば、県立大学の使命として、こういった取組は当たり前だと思うが、過去の経緯からすると改善或いは進歩があったということであれば、委員長の評価に同意する。

○委員

同じように過去の経過は分からないが、身延町をフィールドにした取組は素晴らしいこと
と思っている。先生のおっしゃる通りで良いと思う。

○委員。

私は、年度計画通り順調に実施されているという観点でⅢとしたが、そういうことであ
れば、評価をⅣにすることも差し支えないかと思う。ただ、評価をⅣにした場合、S評価にな
らないと不自然ではないか。

○委員長

A評価はA評価である。

○委員

1項目しかないが、その1項目がⅣなのにA評価でいいのかという気はする。

○委員長

基本的に、評価がⅢとⅣのときは全部A評価ということになっている。S評価はⅣがたく
さんあるときなので、A評価はA評価である。

○委員

承知した。

○事務局

基本的に論点整理表の1頁目上段に評価のSやAの考え方は記載している。今のお話のと
おりであるが、S評価とするときは、本当にその中でも、特に認める場合だとあるため、そ
のような整理でお願いしたい。

○委員長

それでは次に、I-1-(3)大学の国際化について、事務局から説明頂きたい。

○事務局

資料2及び3により説明。

○委員長

全体としては皆さんの評価は一致しているが、23と24については、小項目の評価が違っ
ているが、23についてまず委員からこれ付け加えて御発言頂きたい。

○委員

考え方ということではないが、委員長が記載しているとおりで、大学の国際化という観点
から言えば、留学生の増加や留学に行ったとかは当たり前のことで、特筆すべき取組とは思
えなかった。

大学の国際化というものに該当するのかどうかは別にしても、やはり地域に色々還元する

活動等があって初めて年度計画を上回るものになるのではないかという認識の中で、年度計画どおりという評価をさせて頂いた。

○委員長

私も付け加えると、この程度の活動は当たり前ではないかという気がした。ここについて他の委員の方々から御意見を伺いたい。

○委員

他大学のことはわからないが、国際交流的なプログラムがたくさんあると思った。学部を超えて参加できる体制があるということで評価を高くした。

○委員

まず、大学の自己評価Ⅳを鑑みて進捗状況を見ると、記載量が多くコロナ禍にも関わらずたくさんの取組をしていると感じたため、自己評価を尊重し、評価した。

○委員

委員が仰っていたように、他の大学、一般的というところがわからないが、コロナの様子を踏まえても、対策をされているというところが見受けられたため、一般的かどうかはさておき、評価させて頂いた。

○委員長

ここは受け取り方の問題のみのため、Ⅳという大学自己評価に合わせて結構だという方が多数いらっしゃるが、もし委員に御異論なければ、大学の自己評価どおりにさせて頂きたいがいかかが。

○委員

結構である。

○委員長

続いて、24のところで私はⅣと書いた。大学の規模からして一生懸命やっているということはわかったが、新しい様々な国の施策の中では、やはりまだⅣをつける段階じゃないという気がしている。以前から、国内では人口減少に伴い働き手が減っていく中で、大手の企業は外国人を戦力として採用していた。

国としては、大企業だけでなく幅広い日本国内企業の戦力として、留学生に定着してもらいたいというようなことを掲げている。これからの大きな宿題とすれば、留学生に対して、どういう形で日本企業でのインターンシップというものを実施して、日本の企業に勤めてもらうのかということになる。

県立大学で考えると、例えば山梨大学、山梨県の経済団体、各企業と連携し、山梨県内企業でインターンシップをさせるようなことを通じ、県内企業の戦力として就職させていくようなことをこれからは考えなければならない。

どこかで希望として書いて、それができればⅣをつけるということで、今回はⅢで良いと

考えている。留学生を、例えば山梨県内企業の戦力として定着させることについてどのようにお考えになるか。或いは、そういう取組の是非等について委員に伺いたい。

○委員

一般的には県内企業も、既に外国人材の採用は積極的に進めている。従来 of 労働力としての人材というよりは、国内の労働力と同等の方たちを採用していかなければ、企業としてなかなか事業が成り立っていかないような状況、或いは問題意識はもっている。

先般、高度外国人材の制度等も充実しているが、まだ制度的なもの、或いは先ほど委員長が仰った留学生を企業と結びつけるような手段等、まだまだこれから色々整備しなければならない部分があり、まだ十分浸透しているとは言えないが、企業側の意欲とすれば、そういったことを求めている部分は、結構多くなってきている。

先ほど小項目 23 でⅢをつけたのは、実はそういった意味での努力みたいなものを大学側にも求めたいというところ。しかし、企業側でもまだまだこれからであり、評価としては先ほどの評価でよろしいと思う。

○委員長

評価としては、皆さんの意見ということで、法人の自己評価どおりとさせて頂き、今後の取組については、ぜひ県の方でまとめ頂きたい。

引き続き地域貢献等に関する目標の評価について、事務局から説明頂きたい。

○事務局

資料 2 及び 3 により説明。

○委員長

小項目 25 は、特段私もこだわるわけではないため、皆さんと同じで結構でⅢにさせて頂いても良いと思う。

小項目 25 から 29 までは自己評価と同じということだが、委員から御意見、御提案等はあるか。

私の方から委員に伺いたい。COC+R で、社会人に対して色々な講座をやっているが、こういった内容や取組について、経済界、関係団体は認識されていたのか、御存知だったのであれば評価されているのかどうか、御意見はあるか。また、受講した社会人が、実際どうだったとか聞いたことはあるか。

○委員。

評価というのは、とても難しい気もするが、私どもの会員含め、講師として色々お話を差し上げている。そういう方が立つことで、実際に仕事を持っている方たちも、参加すること自体に積極的になっている気はする。こういったことは、続けていくことがリカレントなのかリスキリングなのかは別にしても社会人教育とすれば非常に有効なことだと思う。

評価というには、やはりなかなか難しい部分があるが、良い取組であると評価している。

○委員

看護の専門団体としては、やはり感染管理分野の特定行為の研修を組み入れた新しい認定看護師教育課程を始めたというところは高く評価できる。また、看護実践開発研究センターにおいても、実際に働いている看護職を対象に色々な研修を行っているため、その点は評価をさせて頂いた。

○委員

社会人教育といった取組があること自体は、機会があればというところ。同じ企業にずっと勤めているよりは、転職する機会も自分たちのスキルアップというところで、そういった取組があること自体は本当に良いと思っている。

実際周りでどうかというところにおいては、周知の仕方が大きなテーマと思っている。そういうことがあること自体も、知る機会が難しいのかと思う。ここに書いてあるわけではないが、個人的にはそこが課題と思いながら、素晴らしい取組をどのように周知していくか。知らない県民に対して、ホームページに載っていますよというだけではなく、どうやって周知していくのが求められると思う。

○委員長

周知は、法人が単独でやるよりも、全体として県なり大学アライアンスとしてやっていくということが必要になると思う。参考に御紹介すると、日本経済新聞で報道されたが、金沢市がリスキリングに対する補助金を始めた。

金沢市内の10大学と高専でリスキリング講座を受けた個人に対し、金沢市が2万円払うことを始めた。大学が機会を提供し、これと連動する形で例えば受講する人に対して、県が1万円ぐらい助成するようなことがあるとリスキリングも進んでいく。リスキリングではほとんどのお金が、厚生労働省の職業訓練給付経由か、経済産業省の企業経由で払われるが、お金の配布が団体経由ではなく個人経由に切り替わってきている。

そのような形で、大学の努力と地方公共団体の取組が連携するときは、委員が仰っていることも、非常に盛り上がっていくかと思っている。

では、小項目29までの事項はこれでよろしいとして、小項目の30について、委員がⅢという評価をされているため御意見をお願いしたい。

○委員

実際に、県内の就職率は前から気になっているが、どこかでコロナ禍の影響もあるのではないかと思っている。例えば、弊社は高校生の就職等も扱っているが、以前就職より進学するのはコロナ禍の影響だということも聞く中で保守的に見受けられるかと思っていた。

一方で、近隣の事務所を見ているとリモートが始まっているところがあり、事務所の空き家率が増えている。在宅勤務が増えていることが見て分かる中で、さらにリモートもできるので、山梨に企業を移す、例えば富士山が見える場所で起業したいと言って移動してくる方もいると聞く。そのようなこともあり、県内で働こうという意識が変わってきているかというところが、良い影響ではあるがあると思う。

全体的なところを見て、確かに年度計画どおりとは思いますが、外部的要因もあるのかというところで、お話ししたいなと思ったため、あえてⅢにさせて頂いた。

○委員長

他の委員の皆さんがⅣであるため、今回はⅣで良いか。

○委員

学生の方が、自分スキルアップしたいために特に県外に就職したいと思っているわけではないと思う中で、皆さん思料されて、県内の人、企業について、大学がすごくアピールしているところはよく分かるが、引き続き課題を持って継続して頂きたいという思いでⅢにした。今回はⅣで良い。

○委員長

COC+Rにより内容が多岐にわたっており、項目の立て方が、本当に25から30までのこのような立て方でいいのかということあるため、年度評価や中期計画そのものを、途中で少し変更しようといったときには、項目の立て方で自体を再検討しなければならないと思っている。ぜひ、中期的な観点での検討に反映させて頂きたいと思う。

年度評価については、法人の自己評価通りということできさせて頂く。

続いて、Ⅲ－1業務運営の改善及び効率化に関する目標に移る。事務局から説明頂きたい。

○事務局

資料2及び3により説明

○委員長

小項目31について、私が厳しい評価をしているが、背景を改めて説明すると、これは企業関係の方からすれば当たり前ではないかということ。今まで大学は、教学マネジメントの話でしたように、法人本部が、各学科でどれだけの資源を使っているか全くわかっていなかった。もちろん常勤教員の数は決まっており、大学は定員という概念がとても強いため、教員、事務局職員の定員が何人かということはしっかり管理しているが、実際に人件費としてどれだけ使われているかという話。この場合は、常勤教員、常勤職員の給料だけではなく、例えば非常勤教員、非常勤職員の報酬も当然勘案しなければならない。

だから何をしてほしいということは誰も求めているが、せめて各学部学科でどれだけのお金を使っているか本部で把握していない。大学全体で、教員や職員の人件費は把握しているても、各部局にそれぞれどれだけ配分されているかは、必ずしも把握していない。使用している施設の面積も知らない。

そういうことが大学では一般的で、国は2018年ぐらいから国立大学に対して、定量的に部局別でどれだけ資源が使われているのか、まず把握するよう求めており、その上で、それぞれ自分で考えれば良いとしている。

学問的な問題であれば、じっくり時間をかけて成功事例をやれば良いが、それぞれの部局でどれだけの資源を使っているかは、やってみれば良いことで、企業からすれば、コスト計算は当たり前のことである。

山梨県立大学は、附属病院を持っていないが、例えば、大学の附属病院ですでに管理会計というのは、10年ぐらい前から取り組まれており、診療科別にどれだけのお金がかかっているかを計算している。看護師は看護部に所属しており、各診療科に所属しているわけで

はないが、それぞれの診療科でどれだけの看護師を使っているか計算した上で、収入と支出を出している。

もちろん大学病院の使命を考えれば、必ずしも全部が黒字になる必要はないので、精神科等は赤字で結構だが、赤字であることをしっかり認識するという事は、大学病院では10年前にできている。大学病院で10年前にできていることが、なぜ他の部局に広がらないのかと残念なところ。別に検討する必要はなく、まずやってみれば良いと思う。

とにかく、県立大がまずやってみて、それが正しい把握になっているかは、後で考えれば良い。他の大学事例とか、学問的に何か考えることはないと思うため、このように書いてること自体が、やっていないことを単に弁解しているだけだと思わない。こんな問題を何で言っているのか、非常に厳しい言い方ではあるが私の思うところである。

国立大学については、国は2018年からかなり厳しく言っており、国立大学法人評価でこんな答えをすれば、直ちに評価がⅡになってしまうが、公立大学については、総務省も文部科学省も細かく厳しいことを言ったものはないため、同じように求めること自体が、かわいそうかという気もするがいかがか。

○委員

ここは判断に迷い、コメントで評価しようがないと書いたが、まず目標の設定と年度計画が合っていない。こういうことを書かれていても評価のしようがないため、自己評価を追認してしまった。そういう意味では、Ⅱでも良いかという思いもある。

しかし、計画に対してどうかということであるためⅢにしてしまったが、委員長のおっしゃるようにここは項目立てと目標が良くないため、厳しいようだがⅡでも仕方ないと思う。

○委員

マネジメントの話はマネジメントの話としても、年度計画の目標だとすれば、こういったマネジメントとか定量的指標に基づくものを5年度は検討するような内容になっている。その内容からすれば検討着手はしているため、予定どおりと評価をした。

○委員

教学マネジメントを委員長のお話を伺って改めて認識できたが、年度計画では定量的評価指標に基づく組織評価に向けた調査ができているため、大学の評価と合わせてⅢと評価させて頂いた。

○委員

私も年度計画をもとに評価をしているが、委員長の仰ったことをどう反映させればいいのかと思った。

○委員長

先ほど委員も仰ったが、年度計画が良くなく、中期計画を達成できない状況だと思う。定量的評価指標を作ると書きながら、いつまでに定量的評価指標を作るということがない。とにかく中期計画中に実行しなければ意味がないわけで、年度計画の立て方自体がちょっと間違っているのではないかと思う。

委員の方から年度計画どおりではないかとの御指摘もあったが、評価委員会としては、中期計画達成できるかどうかというような観点でぜひ御検討頂きたいと思う。

厳しいことばかり言ってもしょうがないが、こういうことは、時間をかけずに試しにやってみるという意識を持ってもらいたい。初めから100%の把握は求めておらず、まずは本部として、各学部学科のことを定量的に把握することから始めて頂きたい。把握することだけでも重要であるため、そういった努力も法人に対しては強く求めたいと思う。

評価そのものに対して、別に数値としてこだわらないが、この年度計画を作ったこのペースでは、何のために法人化したのかとなってしまうため、その辺がどうかということ。評価ではなく、あくまでも中期計画に間に合うのかというところ。企業の方は絶句するかもしれないが、どの学部学科でどれだけお金と人員を使っているか把握さえしていないという状況があるので、まず把握してくださいということ。

来年も同じことをしていたらⅠとしてⅢ評価にするという条件つきで、他の委員があまり厳しくなくということであれば、今年はⅢにしてⅠ評価としても構わない。

県はどうか。総務省からこの手の指導はきていないのか。

○事務局

特に今のところ国から話はきていない。

○委員長

県庁の中では、事業分野、或いは各項目で何をどれだけ使用しているかというようなパフォーマンス把握はしているのか。

○事務局

はっきり見える形では、できてないというのが実情かと思う。

ただ、委員長がおっしゃるとおり評価の方、年度計画に基づいているかという観点からするのだろうが、指摘事項のところ、今の委員の皆様の御意見を大学に伝えて認識して頂くのが良いかと思う。

実際には評価書には書かないが、取り組むべきことに取り組んでおらず、言い訳のようなことを書いているのであれば、厳しい評価をしてお伝えすれば良いかと思う。

○委員長

年度計画は大学が勝手に作るもので、評価委員会は中期計画が達成できるかどうかを見る。今回の中期計画期間は比較的長いため、まだ間に合うという話なのかもしれない。

一方で、県でもあまり出来ていないのに大学にばかり求めるのは無理があるということであれば妥協するが、取組がやや弱いため、来年、やっていなければ評価をⅠにするという条件つきとする。

もう一つ、年度計画の取組は、中期計画期間の最後に間に合えばいいというものではない。1回やってみるというトライアルみたいなことは、中期計画が終わる3年前くらいには始めなければ間に合わない。ぜひ、そういうことは大学に伝えてほしい。

そういう条件で、この評価をⅢとして全体はⅠでもいいなという気はする。

○委員

5年度の年度計画では、学内組織を立ち上げ、前倒しが本当はいいのだろうが、指標項目を決定するという事は法人でも言っており、4年度の評価とすれば、それに向けた調査研究等を行っているためⅢで良いと思う。

○委員長

それでは次に、財務内容の改善に関する目標について、事務局から説明頂きたい。

○事務局

資料2及び3により説明。

○委員長

ここで、年度計画自体をどこかで修正することを大学法人に強く言って欲しい。前の期間の時は、アライアンスやまなしができたため、途中で中期計画自体を変えてもらったことがある。中期計画も頻繁に変えるのは当たり前であるが、SPARCを獲得したことが年度計画に書かれていないため、年度計画をしっかりと修正すべき。

科学研究費補助金が34の目標に載っているが、科学研究費補助金は、大学ではなく教員個人に対する補助金であり、これは大学としての財政実績ではない。教員によっては1000万円を獲得できる人もいるが、普通だと数十～数百万円しかなく、その教員個人の直接経費の30%を間接経費として大学が獲得することができる。そういうことを34に書いてあるが、それを法人の目標とするのはおかしいと思う。

大手の大学であれば、多くの大学向けの補助金を獲得しているため仕方ないが、山梨県立大学では、山梨県立大学長名で申請し、山梨県立大学向けに来る大型の補助金は恐らく獲得したことがないのでは。そのため、科研費を書くしかないが、SPARCというは、初めて学長の名前で申請して、大学で獲得したもの。

SPARCは2種類あり、一つが学部改組応援の補助金で、もう一つは学部改組でない補助金があるが、それぞれ全国で3～4件ぐらいしか獲得できない。そのため、全国700ある大学の中で、数校しか獲得できないものを県立大学が獲得したということは、革命的な大成果である。文部科学省高等教育局が所管している国公私共通の補助金としては、今はこのSPARCしかない。700分の1ぐらいの確率のものを獲得したのにどうして計画を変更して宣伝しないのか私としては驚いている。

そういうことの中で、S評価としたいのは、SPARCを獲得した去年の分ぐらいしか特筆すべきことがなく、来年以降は獲得が難しいためである。大規模大学であれば、このような補助金はコンスタントにとっているが、例えば10兆円ファンドは、東京大学、京都大学、医科歯科大学、東工大、学芸大学、大阪大学ぐらいしかとれない。その次のランクになると、地域中核研究大学という補助金を募集しているが、これで通るかどうか。

そのような中で、SPARCを獲得したわけであり、S評価ができるのは、10年、20年で一度ぐらいしかなく、今年やらなければいつできるのかと思う。中期計画変更をして、議会に説明するチャンスを作れば良いとさえ思うが、S評価は褒めすぎか。

○委員

そのようなことはないが、あくまでも年度計画に対しての進捗状況を評価しているため、A評価になってしまうが、今のような含みでSPARCのことを前面に押し出すのであればS評価も可能かと思う。

私もSPARCを獲得したということは高く評価しているが、書いていないため計画どおりという評価になってしまう。今のような含みならS評価もあり得ると思う。

○委員長

中期計画を、今から変更することは無理かもしれないが、年度計画は変更してもらうぐらいの話である。宣伝しないならいつ宣伝するのか。

700大学で数大学しか採択されない補助金を獲得したのは、革命的な話である。そもそもそういうことを年度計画に書いていないこと自体ナンセンスで、ちゃんと議会で報告したほうがいいと思うが、褒めすぎか。

○委員

特筆すべきこととしてS評価をつけるとしたらここしかないと思うため、私はやぶさかでない。

○委員

賛成というか、恐らくS評価をもらえること自体がほとんどないだろうし、委員長のお話を聞いている中では、今年はこの項目しかないと思うためS評価があってもいいのではないか。議会に対して、実績をアピールできると思うため、そういった意味でぜひS評価をあげてほしい。

○委員

今のお話を伺って、貴重なものを獲得したとわかった。せっかくの機会であるので、S評価で良いと思うが、先ほどから言っているように、年度計画を必要に応じて変更しながら取り組むところをもう一度確認できるような形にして頂きたい。

○委員

全国での件数を加味すれば特筆できるということでS評価にすることには賛成する。

年度計画の修正はどのタイミングでどのように記載していけばいいのかというところが気になった。令和4年8月に山梨大学と連携して、と進捗状況に書いてあるため、前の段階から取り組んでいるのだろうが、獲得率がわからず記載できなかったのだと思う。どのように反映していくのが一般的なのかは分からないが。

○委員長

基本的に、前回の中期計画の中で、アライアンスやまなしに関連して変更してもらったが、あのような形で中期計画も随時変更できる。面倒くさがらずに、文部科学省から内示もらった段階で年度計画を変更すればよかった。

計画を遡って変更すれば良く、特別な手続きもないため、ここで評価委員会が了承すれば特段問題ないと思う。事務局と法人の方で工夫して頂いて、SPARC獲得を年度計画へ上

手に入れてほしい。評価結果の方にも、先ほど言ったように全国で700大学の中で数件しか獲得できない補助金を獲得したと説明しないと県民の方もわからない。

その他のところは、時間の関係もあるため、まとめて報告頂きたい。

○事務局

資料2及び3により説明。

○委員長

複数の項目にわたっており、委員からも様々な御指摘を頂いたが、評価するものについては、法人の自己評価と同じであるため、まとめて審議させて頂く。

特に今の資料2の方について、記載、指摘した方が良いもの等、御意見あるか。

○他委員

特になし。

○委員長

個別或いは全体で言い残した等御意見はあるか。全体を通じた感想でも結構なので、仰って頂きたい。

○委員

全体的には、とても色々ことに取り組んでいると思った。特に県立大学は、地域貢献が大きな役割になってきているため、身延町をフィールドとした研究等地域に根づいた活動を今後も進めて頂きたい。

初めて大学の評価に携わらせて頂き、色々なお話を聞きながら難しさを感じてはいるがとても勉強になった

○委員

県立大学はやはり地域貢献が使命であり、その観点からは、一生懸命取り組んでいると思う。私は、今年からで過去のことわからないが、そういう意味では改善しており、この委員会の意味もあると思う。

希望としては、年度計画等に定量的な指標、KPIを入れるように努力して頂きたい。進捗状況を見て、年度計画を上回ったのか、ぎりぎり達成しているのかは定量的指標がないと何とも評価しにくい。非常に感情的、定性的なもので、よく頑張っているやその方向で努力するというようなことが書かれていても、なかなか評価しにくいいため、ぜひこのKPIという考え方をに入れて頂きたい。

○委員

最後お話が結構あったSPARC事業の件で、今回のSの評価というところだが、例えば資料2の19ページで、全国でも数件というところをもう少し強調してほしい。

○委員長

今、御指摘頂いたように、国立大学はもう既に年度計画廃止し、その代わりに先ほど委員が仰った定量的な評価指標、K P Iで進捗を確認している。

既に総務省の方から、公立大学法人についても年度評価を廃止し、その代わりにそれぞれの年度計画ではなく、K P Iで中期計画の進捗確認を確認していくということで、既に法律改正もなされている。

今後、この年度評価の審議とは別にこの法人評価委員会でもって、中期計画の進捗状況をK P Iとしてはどのようなものが適切かということ審議し、お決め頂く。その上で、年度計画自体を廃止するという方向に持っていくものと思っているため、ぜひ委員の方々の御意見を議論の中に集約させて頂きたい。

● (3) その他

特になし。

(法人関係者入室)

〈評価結果伝達・講評〉

○委員長

委員の方々には大変お忙しい中、お時間をとって頂き、評価作業に対して、改めて御礼を申し上げます。

細かいことについてはまた事務局からデータの形でお示し頂くが、私から、今年度の評価で特筆すべき点ことを申し上げます。

なんといっても地域との関わり、公立大学の当然の使命である地域貢献について、従来は、地域研究交流センターの中で終始していたことが、理事長に御就任頂いた後、地域貢献活動が大学全体の活動になり、そしてそれぞれが具体的な教育、リカレント教育、リスキリングという活動に反映されているものと思っている。

そのことについては、高く評価をさせて頂き、これからもぜひ続けて頂きたい。

今後、リスキリングは特に国としても最重点課題である。これは大学の努力というよりもむしろ行政当局、経済団体或いは関係団体との協力でもって今後リスキリング・リカレント等の社会貢献に御尽力頂きたい。

また、特にS P A R C事業採択については、これは特筆すべきものと高く評価をしている。これ関連して法人にお願いしたいことがある。一つは、できるだけ中期計画、年度計画の変更は、速やかに行って頂きたい。

国立大学では、頻繁に計画を修正している。例えばS P A R Cが取れたにも関わらず、そのことに関して何も年度計画に書いていない。ぜひ、それが決まった段階で計画を柔軟に修正し、そのことを正当に評価してもらうために、或いは、県議会、県民に、適時適切に伝えていくことをぜひお願いしたい。

また、特にお願いしたいこととして、リスキリングの関係では、単独ではなく大学関係者、行政当局、経済団体等との話し合いの中の協力関係でやって頂きたい。

特に管理運営の定量的把握こそ、資源配分等につきましては、ぜひ、アジャイル的手法で速やかに進めて頂きたい。

〈公立大学法人山梨県立大学理事長あいさつ〉

本日は、委員長初め委員の先生方には、長時間にわたり評価の審査を頂き感謝申し上げます。

先ほど、委員長から評価結果の全体的なことについて結果を頂いたが、今回、特に本学の地域貢献について、高い評価を頂き非常にうれしく、担当者の大きな励みなると思う。前回は御意見を頂いたが、山梨県立大学の特色は何か、もう一度見つめ直し、他の公立大学と比較してどういったところが特色なのか等踏み込んで、今後はさらに地域貢献機能を強化させていきたい。

前回は含めて色々御指摘を頂いたことについて、もう一度大学で議論、対応をしていきたい。特に、コストパフォーマンスのような業務運営の改善、効率化については、今後注力して改善に努めていきたい。

頂いた様々な御意見は、今後の取組にぜひ活かしていきたい。

以上